学校番号	３１３

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	日本史探究　高校日本史　（山川出版）						
副教材等	最新日本史図表　（第一学習社出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・多面的、多角的に歴史的事象を捉えようとする意識を持つ
・その歴史的事象がどういう経過で生まれたのかという視点を持つ

2　学習の到達目標

【知識・技能】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようになる。
【思考・判断・表現】
我が国の歴史的事象がなぜ起きたのかに着目し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野にいれて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
【主体的に学習に取り組む態度】
我が国歴史への理解を通して、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探求しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解をとして我が国の歴史についての理解、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	○我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解できる。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	○我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、多面的・多角的に考察できる、 ○歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を身につけている	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を深めている ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	原始・古代	日本文化のあけぼの 1　文化の始まり 2　農耕の開始	a：日本列島における旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変化自然環境の変化に着目して理解している。 b：小国の形成について遺跡・遺物や文献資料から多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 c：日本列島における農耕社会の特色とともに、国家形成につながる社会の変化について考察することを通じて、弥生文と縄文文化の違いを明らかにしようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み
		古墳とヤマト政権 1　古墳文化の展開 2　飛鳥の朝廷	a：中国大陸・朝鮮半島との関係に着目し、渡来人のもたらしたものが現在の日本文化の基層にあることを理解している。 b：諸資料を収集して分析し、ヤマト政権の発展や古墳文化の特色、仏教の受容について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：古墳文化の成立が、中大陸、朝鮮半島との関係につながりがあることを見出そうとしている。			

1学期	原始・古代	律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	a:律令体制の成立と変容、それにける東アジア世界との関係性も理解している。 b: 文献資料をもとに、諸勢力の対立と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 c: 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み
		貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士団の成長	a：藤原氏北家の勢力拡大、律令制支配の衰退と地方支配の変質が武士団の反乱・成長につながることを理解している。 b:地方支配の変化による土地制度の変化について資料を読み取りながら考察し、根拠を示して表現できている。 c: 国司や地方支配の在り方の変化、武士の出現など、地方の諸勢力の成長が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。			
	中世	院政と武士の進出 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	a:院政がどのように成立、展開さらに平氏政権の誕生への流れを理解している。 b:武士政権の誕生を通して、歴史における土地の支配や所有が持つ意味について多面的、多角的に考察し、表現している。 c: 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み

1学期	中世	武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立と展開 2 モンゴル襲来と幕府の衰退 3 鎌倉文化	a:鎌倉幕府成立とその展開を通して鎌倉時代の特色を理解している。 b: 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色と、その関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 c: 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成、公武関係の変化による武家政権の展開、元寇に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み
2学期		武家社会の成長 1室町幕府の成立 2下剋上の社会 3室町文化 4戦国の動乱	a:鎌倉幕府滅亡により、庶民が台頭し、地方経済が活発になると同時に、地域権力として成長した戦国大名の登場の経緯を理解している。 b: 南北朝の動乱と日本列島の地域社会の変質や、東アジアの国際情勢の変化とその影響、戦国時代の地域の多様性を多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代のつながりから、この時期の政治や社会の特質を見出そうとしている。			

2学期	近世	近世の幕開け 1天下人の登場 2豊臣政権と桃山文化	a:アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係・文化について理解している。 b: 織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み
		幕藩体制の成立と展開 1 江戸幕府の成立 2 江戸初期の外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	a: 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り江戸時代の社会の構造を理解し、また新田開発をはじめとする産業の発達と多様化について理解している。 b: 織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察して、幕藩体制の特質について多面的・多角的に考察し、またそれが文化にどのような影響を与えたのかを表現している。 c:戦国とは打って変わり幕政の安定がもたらす影響について、多面的、多角的に主体的に追求しようとしている。			

2学期		幕藩体制の動揺 1 幕政の改革と宝暦･天明期の文化 2 江戸幕府の衰退 3 化政文化	a:幕府の財政悪化や天災、列強国の接近によりどのような幕府政治の改革が実施されたか、またその社会背景が庶民の生活と文化にどのような影響を与えたのかについて理解している。 b: 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕藩体制の動揺について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 c: 幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	･定期考査	･定期考査	･ワークシートの記入 ･パフォーマンス課題への取り組み ･グループワークでの取り組み
	近代 現代	近世から近代へ 1 開国とその影響 2 幕府の滅亡と新政府の発足	a: アジア諸国の変化や貿易開始に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯や貿易のおよぼした影響、その後の幕府の崩壊と新政府の成立について理解している。 b: 日本がどのような契機によって近代の国家・社会へと向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。 c: 日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす経済的・社会的影響、また幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通じて近代への学習への繋がりを主体的に見出そうとしている。	･定期考査	･定期考査	･ワークシートの記入 ･パフォーマンス課題への取り組み ･グループワークでの取り組み

2学期	近代　現代	近代国家の成立 1 明治維新 2 第一次世界大戦と日本	a: 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮、また自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設にいたる過程を理解している。 b: 国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題、自由民権運動の展開過程を考察したうえで立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追求しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み
		近代国家の展開と国際関係 1　大陸政策の展開 2　第一次世界大戦と日本 3　ワシントン体制	a:日清・日露戦争から第一次世界大戦における日本の国際的地位の変化を理解し、それが国内政治にどのような影響を与えたのかを理解している。 b: 大戦中の日本の動向を踏まえ、アジアや欧米諸国との関係がどのように変容したのか、また大戦後の国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的、多角的に考察し、表現している。 c: 対外的な戦争が日本の近代化の過程のなかでもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み

3学期	近代 現代	近代の産業と生活 1近代産業の発展 2近代の文化 3市民生活の変容と大衆文化	a:西洋技術の参入による産業の発達の着目し、それが国民の労働や生活、文化にどのような影響を与えたのかを理解している。 b: 地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化や教育分野での変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 産業の発展とそれによって発生した社会問題への対応について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み
		恐慌と第二次世界大戦 1恐慌の時代 2軍部の台頭 3第二次世界大戦	a:恐慌による国内経済の動揺が軍部の暴走を生み出し、戦争の長期化による国際的孤立が全体主義的な国家体制をより強固にした経緯を理解している。 b: 当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 c: 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み

	近代 現代	現代の世界と日本 1　占領下の改革と主権の回復 2　55 年体制と高度経済成長 3　現代の情勢	a:第二次世界大戦敗北による占領下からの主権回復より高度経済成長を経て日本がどのように復興したのかを理解している。 b:戦後、日本における外交事案がもたらした課題や日本の経済復興や高度成長、冷戦終結後の様々な社会問題について多面的、多角的に考察し、その結果表現している。 c: 戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、現代の日本との関係性を踏まえながら、主体的に追究しようとしている。	・定期考査	・定期考査	・ワークシートの記入 ・パフォーマンス課題への取り組み ・グループワークでの取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度